

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミⅡ	チーム名	KKA.OT
タイトル	キャッシュレス社会は来るのか？～電子マネーを中心に～		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー	大塚樹、岡部泰誠、肥塚隼汰、前田浩平、春名康平		
研究計画内容	<p>私たちが今回テーマに取り上げたのは、『電子マネーやクレジットカードが普及したことにより、今後の社会において、現金を使いことが減ってくるのではないか？』ということです。</p> <p>電子マネーとは現金の代わりに、予めチャージまたは自動チャージしたカード、もしくはクレジットカードでの自動引き落とし(後払い)を設定したカードやスマホなどで支払いをすることができる電子のお金です。主に Edy、Suica、nanaco、Pasma、iD、QUICPay、WAON、などがあります。</p> <p>そこで私たちは電子マネー・クレジットカードの普及率と、紙幣、硬貨の発行枚数・利用金額について調べていきます。</p> <p>今日、公共機関やコンビニ、スーパーなどで使われている電子マネーは年々普及してきています。電子マネーでの利用金額も年々少額ずつですが増えてきています。熊本県内のアンケートによると電子マネーの保有率も約 6 割を超えていることが分かりました。その一方で現金を使用する機会が減ってきていると思われれます。日本の硬貨流通量について調べてみると 500 円硬貨は増加傾向で 10 円硬貨と 5 円硬貨の減少傾向にあることが分かりました。</p> <p>現金などのデータは日本銀行、財務省などのさまざまなデータをもとに過去 10 年の推移を調べていきます。この推移から電子マネー、クレジットカードの利用金額と発行枚数を比較していき、今後何十年後、何百年後に現金を使う機会がなくなる時代が来るかもしれないことをこの発表を通して研究していきます。</p>		